

外国人にとって住みやすい日本にするには

3年1組15番 谷優希
 3年1組16番 パーソنز瑛堂
 3年4組20番 野島悠平
 3年5組23番 東輝空

Keyword: 「外国語」 「観光客」 「英語教育」

1. はじめに

世界の言語の先生やALTの先生方の講演や体験談を聞いて、先生方が初めて日本に来た時に困ったことがたくさんあったという話を聞いた。学校の外でも日本にくる観光客や、日本に移住する海外の方にも似たような課題や困りごとがあるのでは無いかと思い、その課題に対し解決策や解決に近づけるためのインサイトを提供し、解決に近づけるためにこのテーマで研究をはじめました。

2. 序論

私たちはグローバルが生み出す力というゼミに所属しており、ファミリーみんな異文化に興味があり、それぞれのテーマに共通するものがあると思いファミリーで話し合った結果このテーマに決定した。

グローバルが進む日本で、日本に来る外国人観光客に対して、日本はどのような取り組みをしているのか、そしてこれからどのように改善していくべきかを、探究活動を通して考え、自分たちのアイデアとして出てきたことを本文で述べる。

その前に日本には主にどの国から観光客や外国人の移住者が来ているのか。何を目的やお目当てとして来日するのかを考える必要がある。Asia to Japan が2023年6月に行った研究の結果レポートによると、日本を訪れる観光客は台湾、中国、韓国、アメリカの4カ国が来日する人の75%を占めている事が示されている。

海外から日本を訪れる観光客へのニーズに対して対応が出来ていない為、外国人は日本ではあまりよい生活の質がないのではないかと仮説を立てた。そして、観光客が日本を訪れた時の問題や観光時のニーズについてより理解を深める必要があると考えた。

これを知るきっかけとして、2023年10月のスタディーツアーで石川県を訪れた際に、石川県の有名な観光スポット東茶屋町で海外観光客に向けてインタビューを実施した。石川県で行ったインタビューの内容は以下のとおりである。

Q1・Where are you from? 出身国はどちらですか？
Q2・What brought you to Japan? なぜ日本を訪れたのか？
Q3・What is a good point, or something you like about Japan? 日本のよいところ、好きなところは？
Q4・Have you experienced any trouble while traveling in Japan? 観光中に直面した課題はありますか？
Q5・What is something you don't like about Japan? 日本の好きでは無いところは？

表1 アンケート内容

インタビューの実施内容として、石川県で東茶屋町の街中を歩いている観光客11組にこちらから話しかけてインタビューに協力していただいた。

アンケートにはギリシャ、ポルトガル、フランス、アメリカ合衆国、アイルランドなどといった数多くの国々の方にお答えいただきました。Q2には日本食やアニメの体験、東京に行ってみたかった。Q3は日本の町並みの清潔さや安全さ、などが日本に対するポジティブなポイントとして多く挙げられていた。Q4の回答で、課題として日本語表記や言語の壁が挙げられていたが、インタビューに答えて頂いたグループの皆さんが翻訳機や携帯電話で概ねの課題を解決していたため、大きな問題は自己解決出来ていると感じた。しかし、翻訳機は文法の翻訳が間違っている時や誤った英語表記に対応出来ない時があると言う声も挙げられていた。Q5には多くのグループは何もないと答えていたが、日本語力が足りないため会話がうまく行かない、また日本人同士の会話が少ないため少し寂しく感じるというグループもいた。

このインタビューの結果から、石川県と周辺の都道府県では観光客が困る要素は間違った英語表記などから生まれる言語の壁が唯一の問題だと言える。そのため英語で外国人観光客のニーズに応えられる人材と的確な英語の表記が必要だという仮説を立てた。

3. 本論

高校生ということができることが限られている立場でできることを見つけ、外国人の意見を参考にして課題解決のために探究を深めていこうと考え、スタディーツアーに向けてまずは私たちの仮説をもとに計画を立てた。

まず外国人観光客にとってどんなことが障害になっているか仮説を検証するため、身近にある街中の看板やお店のメニューに注目した。そこでよく見かけたのは、間違った翻訳で書かれたものだった。街やお店の看板で間違った英語表記や、誤解を招くような文法、言語の翻訳により生まれる情報のズレや間違った情報などが看板、地図に記載されており海外からの観光客に対し混乱を招いていることが分かった。

その中でもお店でのメニュー表に英語が書かれていないので、食べ物などを注文する時とても難しいのではないかと予想した。外務省が2022年に行ったアンケート曰く、海外からの観光客の多くが「日本食」の食文化に触れるために日本を訪れる割合が4割以上だという研究結果が出されている。食文化に触れるため日本を訪れる方が多い中、食文化に触れ合う際に言語面で不便や困難はあってはいけないと思った。その課題を解決するために私たちは石川県の東茶屋街で外国人観光客にアンケートをした(表1)。

出身国と不便だったことを聞いた理由は、その人の国の文化と日本の文化を比較して、国によって困っていることが違うのかどうかを明らかにするためである。例えば、中国では料理人に美味しかった、満足したという敬意を込めて料理を残す文化、他にも限られたコミュニティでしか会話を行わない日本人の文化に対してカジュアルでフレンドリーに街中の人にもコミュニケーションを行う欧米に根付いた文化などにおいて比較し課題を発見したかったからだ。

実際に中国人やアメリカ人、ギリシャ人、ポルトガル人、フランス人にアンケートを行った結果をまとめると、飲食店で日本語しか書かれてないことや、英語を話せる人が他の旅行先と比べて少ないことから、分からないことを質問したい時にコミュニケーションがうまく取れず、日本語が話せない観光客自身にも申し訳なさを感じさせているということも明らかになった。

そこで私たちは、外国人は日本滞在中に言語の壁にぶつかっているという結論に至った。総務省の研究によると30年後の日本では人口が約4,000万人減少していると予想されている。人口の高齢者の割合が38.9%にまで上ると言われており、それは国民4人に1人が高齢者ということになり、日本の総人口は8,000万人にまで減少することになる。これはとても深刻で働く人が少ないのに支えないといけない人の数も増えるということである。

この状況下に陥ることがわかっている日本で、日本人だけで未来の日本を支えていけるだろうか。外国人にも頼らなければならない。そのために外国人に住みやすい日本を作るべきである。もちろん日本に住むためにはその人が日本語を覚えるべきで、日本人が外国人に合わせるという考えではない。しかし、外国人が日本に慣れるまで互いにカバーし合える関係性が望ましいと思う。その実例として、看板やメニューに正しい英語を書くことなどが大切だ。これについて探究のベクトルを向け、公用語が英語ではない国と英語教育を比較した。

日本	ドイツ	韓国	中国
小学3年生から	小学1年生から	小中学校から	幼稚園からが多い
文法と非実用的な単語	文法だけでなく会話や実践的なコミュニケーション	早期英語教育 日本より小学生の授業時間が130時間多い	スピーキングが多く日本よりもっと多い単語を習得
入試に合格するための教育	グローバルな人材を目指して	一流の企業に勤めるために	

私たちの経験から思ったことは、受験に向けた英語で、堅苦しい英語ばかり覚えさせられて、スピーキングを取り入れようとする授業が少ないことだ。よく教科書英語は実際の英会話で使えないと言われているが、それも関係していると思う。

スタディーツアーを通して10月に石川県東茶屋町で行ったインタビューをもとに奈良県、東大寺、8月に観光客と日本に在住している外国人に対し日本に対するイメージと日本で暮らす外国人としての生活の質についてインタビューを行った。インタビューの際にさまざまな視点からの返答をいただいた。

4. 結論

最終的に私たちが目指しているのは、日本の英語教育の水準が向上すること英語に触れる機会を増やすことにより外国人とのコミュニケーションを多くの日本人ができるようにし、言語の壁をなくすことである。言語の壁がなくなることによって、今後少子高齢化で衰退していく日本へ外国人が手助けをしてくれる可能性があり、その外国人をサポートするためにも日本人が英語を話せるようになることはとても大切だ。しかし、現在日本の英語教育水準は世界的に見てもかなり低いため、英語教育の見直しなどの対策をすることが必要だと感じた。

5. 参考文献・出典

総務省, “我が国における総人口の長期的推移”, 市町村合併の推進状況について,

https://www.google.com/url?q=https://www.soumu.go.jp/main_content/000273900.pdf&sa=U&sqi=2&ved=2ahUKEwjA7MiJifSIAxXZbvUHhb-zAZ8QFnoECBsQAQ&usg=AOvVaw0lZCZzrRdSXzALkrfmsTwF, (2024-10-4)